



藻岩高校ICTだより



2024.4.2 教務進路部情報部門

『藻岩高校ICTだより』第4号は、教育における ICT の活用段階を示す「SAMR(セイマー)モデル」についてご紹介します。

◆SAMRとは

SAMR モデルとは、フィンランドのプエンテデューラ氏が2010年に考案した「教育におけるICTの活用段階」を示すモデルのことです。

- ① Substitution: 代替
- ② Augmentation: 拡大
- ③ Modification: 変容
- ④ Redefinition: 再定義

1.代替 [デジタルって便利だ]

板書の代わりにプロジェクターで文章を投影したり、PDFで課題を配布・回収するなどの段階を指します。つまり、アナログをデジタルに置き換えるといった「教員の教具的活用」に当たります。

2.拡大 [デジタルのおかげでやれることが増えた]

生徒が家庭学習でICTを活用したり、ポスター作成に向けて写真や動画を挿入するなど、アナログに比べて学習の可能性が拡大していく段階を指します。つまり、生徒が日常的にICTを活用するといった「学習者の文具的活用」に当たります。

3.変容 [デジタルがなかったら無理だった]

スプレッドシートに入力した自分の作文をクラスメイトに見てもらい、生徒同士でフィードバックをし合ったり、プレゼンに向けた情報収集のために自分たちでGoogleフォームを作成して多くの人にアンケートを取るなど、デジタルツールを活用して生徒が能動的に学習に取り組む段階を指します。これは、ICT活用の視点によって授業計画が大きく変わり、学習の内容が再設計される可能性を有している段階となります。

4.再定義 [デジタルで生徒自身が学びと世界を変えていった]

学習のプロセスが転換され、教師は「教える」から「サポートする」役割となり、学びの中心が生徒になります。学校を超えて世界中の人と関わり、情報共有や連携によって課題を解決するなど、これまでの教育とは全く異なる実践を可能にする段階となります。

◆藻岩高校による実践例

1.代替

- ・日本史の解説をPowerPointで作成し、スクリーンに投影する。
- ・解答解説のプリントをPDFにして生徒に配付する。

2.拡大

- ・レポート作成に向けて、クロームブックを活用して情報収集に取り組む。
- ・Chat GPTを活用してレポート作成に向けたアイデア出しを行う。

3.変容

- ・スピーチ資料をGoogleスライドで作成し、スマートフォンでスピーチ動画を撮影する。その後、クラスメイトと動画を共有して相互で批評し合い、完成したスピーチ動画を保護者へ送って学習の様子を家庭と共有する。
- ・ICTを活用した反転学習を取り入れ、Youtubeで文法事項の解説動画を配信し、授業では対話や協働学習を通して学びを深めていく。

4.再定義

- ・総合的な探究の時間をきっかけに、高校生向けのオンラインプログラムに参加する。Zoomで大学生のメンターや全国各地の高校生と交流し、自分のやってみたいことや疑問に思っていることを共有する。考えたこと、やってきたことを自分の言葉で発表し、LINEのオープンチャットを使って高校生だけのコミュニティを作っていく。
- ・総合的な探究の時間において、地域の洋菓子店と連携して商品開発・宣伝・販売を行う。「地域を代表する洋菓子店の力を借りて、スイーツで地域の人を笑顔にする」というビジョンを掲げ、自分たちが考案したケーキをより多くの人に知ってもらうために、商品完成と販売開始までの流れを洋菓子店のSNSで発信する。

<h3>Substitution 代替</h3> <p>デジタルって便利だ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書の代わりにプロジェクターで文章を投影する ・PDFで課題を配布・回収する ・アナログをデジタルに置き換えるといった「教員の教具的活用」 	<h3>Augmentation 拡大</h3> <p>デジタルのおかげでやれることが増えた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習でICTを活用する ・ポスター作成に向けて写真や動画を挿入する ・生徒が日常的にICTを活用するといった「学習者の文具的活用」
<h3>Redefinition 再定義</h3> <p>デジタルで生徒自身が学びと世界を変えていった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は「教える」から「サポートする」役割となり、学びの中心は生徒となる ・学校を超えて世界中の人と関わり、情報共有や連携によって設定した課題を解決する 	<h3>Modification 変容</h3> <p>デジタルがなかったら無理だった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンに向けた情報収集のために自分たちでGoogleフォームを作成して多くの人にアンケートを取る ・ICT活用の視点によって授業計画が大きく変わり、学習の内容が再設計される

◆「拡大」を重視していく

「代替」までは多くの学校で取り込まれていますが、GIGAスクール構想によって1人1台端末が実現している現状において、「月に1回しかデジタルツールを活用しない生徒」と「毎時間の学習でデジタルツールを活用する生徒」の間には大きな差が生じてしまいます。

日常的に生徒がデジタルツールを活用し、ICTを「学習者の文具的活用」にまで引き上げる「拡大」の段階が、これからの教育活動ではより一層重視されていくこととなります。